

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474500117		
法人名	介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	広島県福山市新市町新市888番地		
自己評価作成日	平成25年1月16日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成25年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに市の支所があり、周辺には住宅も多いため落ち着いた環境にある。1階は併設のデイサービス、2階がグループホームになっており、落ち着いた感じの空間が広がり、利用者の方々も穏やかにゆるやかに過ごされている。隔月の家族会、フラワーアレンジメント、ゆうゆう菜園での野菜作り、ドライブ等を実施している。利用者のその人らしさを大切に、残存機能維持に努めたケアを実践している。また、職員1人1人の役割を活かし、チームワークが取れ、それぞれが目的意識を持ち日々のケアに活かしている。1階の併設通所介護事業所と連携を取り、レクリエーションの実施や季節の行事などを積極的に取り入れている。

利用者のこれまでの生活リズムを保持できるような計画を立て、日々それに基づいたケアを行い一人ひとりが充実した生活を送れるよう職員は配慮されている。計算問題、ぬりえ、折り紙、利用者個々が好まれることや、洗濯たたみ、食事の下ごしらえ等家事に参加される方もおられ、其々の力量を踏まえ職員が傍らで温かく見守る光景がある。階下のデイサービスと交流が盛んでイベントは全体で行い地域の参加者もあり定着した交流が行われている。施設全体での研修や法人内研修が充実しており看護師が主体となりテーマを決めて研修を開催するなど職員の質の向上に向け積極的な取り組みがされている。事業所内は利用者の目線に合わせ季節の花があちこちに飾られたり、菜園で収穫した野菜を利用者と職員と一緒に調理されたりと、家族のような雰囲気の中で暮らせる心とむ事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員はミーティング・カンファレンス・朝夕の申し送り時に理念を意識し、利用者個々のその人らしさにどう向き合うか、言葉かけや態度等を確認して、理念の実践に向けて取り組んでいる。	理念を基本としたケアを日々実践し、全体会議、GH会議、申し送り時等の場面で再確認の機会を作っている。申し送り時には唱和を行い共有に努め、特に言葉かけは重要視し意識を持って取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶や地域住民の一員として清掃活動に参加したり、地域での祭りにも利用者とともに参加して交流に努めている。事業所の玄関前に今日の一言を黒板に書いたり、散歩等で近隣の方々との会話のきっかけにしている。	町内のイベントや小学校との交流、時候の良いときに公園に出向き、近隣の方とのふれあいを大切にしたり、町内の清掃活動に参加するなど地域で共に暮らす一員としての活動を積極的に行っている。併設施設と共に開催する納涼祭に地域の方の参加があり交流する機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の夏祭りを地域へ開放し、地域の夏祭りへも積極的に参加し、地域住民との交流を図り理解を深めて頂き、いきいきサロンへ積極的に参加できるようアプローチしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、利用者・利用者の家族・地域包括支援センターや行政の職員・民生委員の方を参加メンバーで開催している。事業所の状況報告や参加者から意見をいただき、運営に反映している。	定期的に開催し、状況報告、ヒアリング報告、事故報告の対応策、事例に基づいたターミナルの関わり方など事業所の状況をオープンに報告され、議題を模索した会議内容となり、参加者から率直な意見を頂いている。	都合により地域住民の方や民生委員の参加が得られにくくなっている為、再度運営推進会議の目的について説明され、地域との交流促進の場となるよう今後も引き続き出席要請の努力をされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、担当者との関係を深めていけるよう努めている。	運営推進会議にはほぼ同じ方が出席されるため顔見知りの関係ができているので何かあれば気軽に相談しやすい。支所が近距離にあるため行事報告を持参し、助言や指導していただき、サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	治療以外での身体拘束はしていない。	マニュアルを基本とし事例検討を含め勉強会は原則全員参加のもとで開催し、周知徹底し共通した対応となるよう努めている。医師の指示でやむを得ず行う場合や緊急性を要する場合は家族に同意を得て期間を定め複数職員で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、勉強会を通して職員に報告している。虐待防止の理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、必要性や詳しい内容などを勉強し、職員・ご家族様にも必要性があれば説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ丁寧に説明を行なっている。特に、重度化や看取りについての対応。医療連携制度については詳しく行い、同意を得るようにしている。解約の際も同様に時間をかけ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来るだけ職員が声をかけ、ご本人やご家族とゆっくり話をする機会を設けている。意見や苦情があった場合は、即座に全職員で話し合い、日々のケアに反映できるように心掛けている。	イベントや家族間の交流を兼ねて2か月に1回家族会を開催しより多くの意見や要望が気軽に言える機会を設けている。各利用者の担当職員が毎月健康状態・生活状況のほか一言添えて詳細な内容で報告しているため家族も疑問点や要望が言いやすい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議・2回のカンファレンスを行い、職員の意見を聞く機会を設けている。日頃よりコミュニケーションを密にとるように心掛けている。	日頃利用者との関わりの中で聞くことや、カンファレンスや全体会議、申し送りアイデアや意見を偏りがなくまんべんなく聞き看護師の意見も参考に最善方法を検討している。個人面談することもあり職員の意欲向上や気持ちよく働けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所として、職員が向上心をもって働けるよう人事考課を実践し職員にフィールドバックしている。また職員に各種の研修の案内・支援を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な事業所内研修・社内研修を実地、また他の法人主催の研修にも積極的に参加できる環境づくりが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、毎週地域で行なわれる連絡会に参加し、地域の同業者と連携を取り、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった際には、必ずご本人様に面会し、心身の状況や思いに向き合い、職員がスムーズに受け入れる事が出来るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っている事、不安に思っている事、望まれている事などをよく聞き、どのような対応が出来るかを検討し、希望に添えるような対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族様の思い・状況聞き、改善に向けた支援を提案し、複数の選択肢を提示し、検討したうえで支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、食事を共にしたり、生活の空間を共にすることでお互いに支えあうことの重要性を理解し、日々の業務にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の際、日々の状況など詳しく伝える事が出来るようにしている。1ヶ月に1度利用者状況報告書を作成し、ご家族に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん、馴染みだった方、親戚などの面会も自由に行なえるように支援している。	個々の生活習慣や思いを大切に、家族の協力を得てなじみのある神社へ出かけたこともある。兄弟や親せきの訪問時には利用者と共にできるだけゆっくり過ごしてもらえよう雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々4の生活の中での役割、活動を通して、入居者同士の関係が円滑に行なえるよう働きかけを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人さま・ご家族様の相談や支援について、柔軟な対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、しっかりと話し、個々の要望などを聞き取るように努めている。また、意思疎通困難な方には、ご家族様より情報を得るようにしている。	利用者の思いに寄り添うことを第一に考え、利用者の視点でゆっくりと声かけをし聞きとっている。思いを出しづらい方には表情や小さな動作から察知したり選択肢を提示し本人に選んでもらうことや家族の意向を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様に、これまでどのような生活を送ってこられたかなどをアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、入居者の方々の出来ることや、現状を理解、把握し、個々のペースに合わせた支援を行なうよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、介護計画書の見直しを行い、要望などが反映できるような書式を使い、全職員が一読し、理解できるような形をとっている。	家族他関係者の情報を基にこれまでの生活リズムを崩さないようなプランに心がけ日々ケアされる職員の意見を聞き、利用者本位の計画が作成されている。長谷川式評価スケールに基づき定期的な見直しと変化に応じた見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の方々の状態・状況は、個々の介護日誌に記載し、職員間の情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスなどと共同して、外出行事や夏祭りなど、大勢で実施できるような行事にも参加し、柔軟な対応が出来るような支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域包括支援センターや行政の職員、民生委員の方々に参加して頂き協力体制を構築し、近隣の文化施設を利用し交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の要望される病院・医院を主治医とし対応を行なっている。希望されれば往診を依頼している。	利用者・家族の希望のかかりつけ医による往診を2週毎実施し、歯科医による週毎の診察も行っている。状況により受診の同行も行い診察結果は関係者全員で共有し本人の健康状態を正確に把握したケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師に健康チェックや処置などを施してもらっている。また、緊急時には看護師に24時間体制で連絡が取れるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐように、病院関係者と早期に話し合う機会を設け、事業所内での対応が可能な段階で、なるべく早く退院が出来るよう努めている。また、ご家族とも情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業者が対応しうる最大限のケアについて説明し、同意を得ている。	終末期に於いては家族に書面で具体的な対応方法の意思確認をし、状況によりその都度再確認を行っている。又法人全体の看護部と連携をとり、いつでも連絡出来る体制となっていて、医療機関とも24時間指示が仰げ関係者の合意を図り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状況を常に注意し、急変時の連絡体制の確立により慌てることなく対応できるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路を目につく場所に掲示し、避難訓練を通して全職員が対応できるよう訓練している。また、地域の方々には町内会長を通して利用者の身体状況を把握して頂いている。	事業所内には火災通報装置・スプリンクラーが設けられている。例年は防災訓練を行っているが24年度は実施が叶わず今年の4月に夜間想定で行う予定としている。	あらゆる災害に備え職員全員の防災意識を高める上でも避難訓練を定着化されると共に、近隣の方への声掛けに努められ地域住民からの協力が得られるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、社内で行なっている研修の中で接遇研修を取り入れている。入居者の方の個性を尊重し、プライバシーを損ねないような対応を職員一同で取り組んでいる。	職員は担当制により利用者其々の性格を理解し、言葉掛けや対応は職員間でも注意し合い人格を傷つけぬ支援に努めている。入浴やトイレ介助時の羞恥心への配慮も気を配り尊厳を損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案し、入居者の方が自己決定できるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まってはいるものの、時間を区切ったような生活はせず、あくまで入居者の方の状況や状態に合わせた生活を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方と一緒に買い物に出かけ、自分の身の回りの物などを中心に好みの物を購入して頂けるように支援している。また、理髪は定期的に行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食作り、おやつ作りは入居者の方と職員が出来る限り一緒に作っている。	利用者の希望も入れた献立で職員手作りの料理を提供している。本人の力量で包丁を使い下ごしらえしたり、職員や利用者同士会話をしながらの食事の光景は家庭的であり利用者にとって大切な時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みに合わせた食事内容を心がけ、食事の摂取量に注意している。食事の摂取量、水分量を記録し状態の変化に素早く対応出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄剤、口腔ケア用ウェットティッシュ等を使用し、個々の状態に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行なっている。	日中は本人からの意思表示やサインを見逃さぬよう対応したり、個々のパターンを把握し時間毎の声掛けでトイレでの排泄を促している。夜間は安眠を妨げぬ範囲で誘導を行い排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄有無、回数、便の状態、量を記録し、また便秘気味の場合には、医師の指示のもと処方して頂き、便秘薬使用し便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施しており、入居者の方の要望に合わせて入浴支援している。	入浴回数や時間帯は利用者の希望を優先している。同性の介助員を希望される方には希望にかなった配慮をしたり、一人入浴を希望される方にはカーテン越しの見守りをする等利用者が安心して入浴できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動やレクリエーションへの参加を促すなど、生活リズムを整えるよう努めている。また、個々の睡眠パターンを把握し、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容を全職員が理解し、入居者の症状の変化があればすぐに主治医に説明している。薬の管理は事業所でさせていただき服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や家事などをして頂き、個々にあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や買い物に出かけるなど、外出する機会が増えるよう支援している。畑仕事が好きな方とは、植え付け・収穫・管理などを一緒に楽しんでいる。	事前に計画を立て概ね月2回の頻度で外出を実施し、瀬戸田や鞆などの観光地にも極力全員が出掛けられるよう取り組んでいる。利用者の希望もあり買い物や散歩に出掛けたり菜園作り等、生きがいのある暮らしとなるような支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難なため、ご家族と相談の上、事業所でお金を預かり管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の要望がある場合、希望に応じて対応させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	野菜を包丁で切る音やご飯が炊ける匂いなどの五感から得られる安心感や、季節に応じた食べ物などを取り入れるなどの工夫をしている。	室内は清潔で明るく所どころに花が生けられ季節感がある。廊下の壁にも利用者の目線を配慮した高さで花や風景の写真が飾られ心を和ませてくれる。食事の準備や匂いからは生活を感じ取れ利用者にとっては穏やかで自然な時が流れる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置いたりテレビを設置し、リビングにはソファを置き、個々に過ごせたり、気の合う方と過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や使い慣れた物があることによって安心感を持って生活して頂けることの説明を行なう。在宅で利用していた物を出るだけ持ってきていただくようお願いしている。	居室は部屋により壁紙を変えてあり個人の部屋と呼ぶにふさわしいような配慮がされている。室内には使い慣れた布団や衣装ケース、写真等が持ち込まれていて利用前の生活が維持できるよう取り計らっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方の力に合わせて、手すりや浴室、トイレや廊下などの設計がなされている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催は2か月に1回の定期的な開催は出来たが、地域の方、民生委員の方の参加が得られていない。	年間計画をたて、2ヶ月に1度の運営推進会議の実施を行う。	地域の方、民生委員の方に運営推進会議の目標について説明する機会を設け、参加の要請をする。気軽に参加していただけるような行事を計画し、案内状の配布・広報活動に力を入れていく。	2ヶ月
2	35	24年度は、夜間想定避難訓練が実施出来ていない。	全職員の防災意識を高めるために定期的な避難訓練の実施をする。	夜間想定避難訓練の実施。あらゆる災害に備え、全職員の防災意識を高めるために勉強会・研修を開催・参加していく。	1カ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。